資料１

枚方市地域福祉計画（第４期）

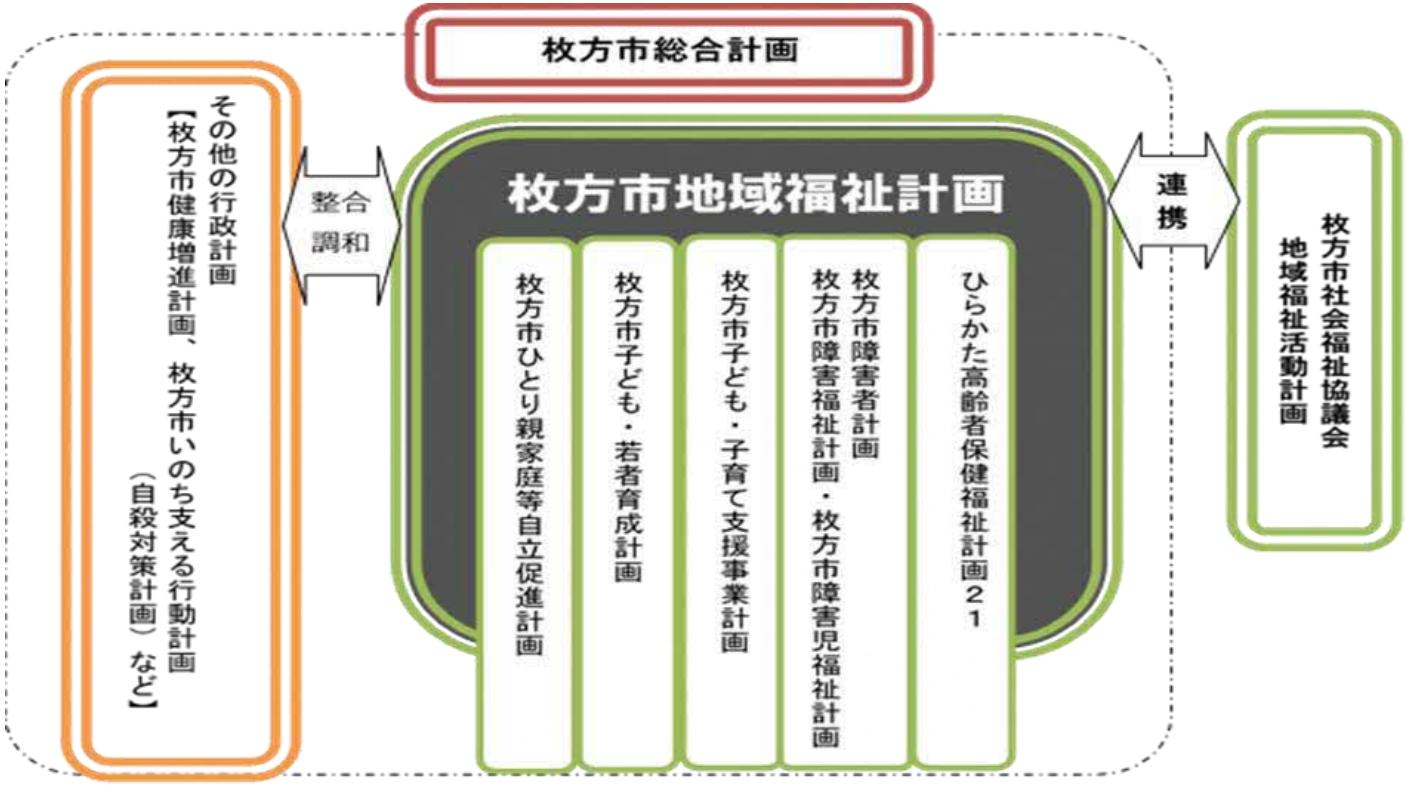
令和４年度の主な実績と今後の取組について【まとめ】

枚方市地域福祉計画（第４期）令和４年度の実績と取組状況について

枚方市地域福祉計画（第４期）について

本計画は、計画期間を令和２年度（2020 年度）から令和６年度（2024 年度）までの５年間とし、枚方市のまちづくりの総合的な計画である「枚方市総合計画」を上位計画とし、地域福祉とも関わる分野別、対象者別の福祉計画である「ひらかた高齢者保健福祉計画 21」「枚方市障害者計画」「枚方市障害福祉計画・枚方市障害児福祉計画」「枚方市子ども・子育て支援事業計画」「枚方市子ども・若者育成計画」「枚方市ひとり親家庭等自立促進計画」と連携し、整合を図っているほか、保健や人権、生涯学習、バリアフリーなど、その他の行政計画とも整合や調和を図ることで、地域における個別施策の展開を充実させる役割も担っている。

【枚方市地域福祉計画の位置づけ】



基本方向と施策目標

1．基本理念　「みんなが、いつまでも安心して地域で暮らせるように…支え合える地域を創る」
2．計画の視点　①人やくらしがつながるまちづくり
　　②課題や問題が解決できる地域づくり
3．取組の課題　【1】複雑化する地域生活課題への対応
　　【2】地域で活躍する人材の確保
　　【3】家庭、地域、社会への福祉意識の浸透

取組みの課題	基本方向	施策目標	具体的取組み
【１】 複雑化する地域生活課題への対応	１．誰もが暮らしやすい地域づくり	包括的な相談支援体制の充実	・コミュニティソーシャルワーカーをはじめとする相談機能の充実 ・複合的な生活課題への対応 ・庁内外で連携・支援できる体制の拡充
		福祉施策の充実	・各福祉計画に基づく福祉施策の推進
		権利擁護のさらなる推進	・成年後見制度や虐待防止をはじめとする権利擁護に関する制度の周知や利用支援 ・市民後見人などの養成や支援
【２】 地域で活躍する人材の確保	２．誰もが活躍できる地域福祉のネットワークづくり	地域で活躍する人が増える環境づくり	・地域活動への参加のきっかけづくり ・枚方市社会福祉協議会との連携強化 ・事業者等との連携強化
		コミュニティの活動支援	・地域の情報発信の支援 ・住民参加による活動の支援
		災害時にも助け合える取組みの強化	・避難行動要支援者などの支援体制の構築 ・地域の取組み事例の情報発信 ・災害ボランティアの充実
		地域の活動拠点への支援	・地域の活動拠点の整備等への助成 ・市内施設の活用や事業者との連携による地域福祉活動の支援
【３】 家庭、地域、社会への福祉意識の浸透	３．誰もが支え合い尊重し合える意識づくり	福祉意識の向上	・福祉や人権に関する理解促進のための啓発・情報の発信 ・事業者等による地域貢献活動の広がり
		福祉教育の推進	・福祉施設や交流の場などでの学習の推進

参考資料「枚方市地域福祉計画（第４期）令和４年度の実績と今後の取組」の見方

事業番号	事業名	担当部署	事業の概要	令和4年度の取組状況	所管課評価	今後の課題・取組内容	取組の方向
95 ①	市が所有する施設の活用 ②	:策課 ③	地域が行う地 共施設へ利用 確保する。 ④ 支援するために、公 うことで、活動場所を	いきいきサロンや子育てサロン等での利用について、95件行政利用枠として確保し、福祉活動の会場確保の支援を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で中止になることも多かった。 行政利用枠で貸室を確保した件数 / 行政 / を確保した / 行政利用枠で貸室を確保した件数 R2 / R4 31件 / 95件 ⑤	⑥	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類になった になることが予想 有施設の行政利 支援していく。 地域活動が活発 継続して、市の所 行い、地域活動を ⑦	⑧

①	事業番号	②	事業名	③	担当部署	④	事業の概要
⑤	令和４年度の取組状況	⑥	所管課評価	⑦	今後の課題・取組内容	⑧	取組の方向

【⑥欄の区分について】

評価	説　明
達成	取組んだ結果、効果・成果があった。
概ね達成	例年どおりに取組んだ。
未達成	事業が実施できなかった。（新型コロナウイルス感染症の影響によるものも含む。）

【⑧欄の区分について】

取組の方向	説　明
拡充	実績年度の次年度以降、事業を拡充する予定
推進	実績年度の次年度以降、引き続き同様の取組内容で事業を推進する予定
見直し	実績年度の次年度以降、事業を見直す予定
縮小	実績年度の次年度以降、事業を縮小する予定
廃止（休止）	実績年度の次年度以降、事業を廃止（休止）する予定
終了	実績年度の次年度以降、事業を終了する予定

令和４年度の実績と評価

本計画である第４期計画の実施初年度である令和２年度から３年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、事業自体が実施できなかったり、感染拡大防止のため書面会議等密にならないような取組方法で実施するなど、第３期計画までとは大きく異なった対応をせざるを得なかった。

令和４年度においては、オンライン等を用いた取組が広がり、また、一定、対面での活動が再開したことから、実績数が前年度を上回るなど、少しずつではあるがコロナ禍前に戻りつつある傾向がみられる。

また、介護、障害、子育て、生活困窮といった分野別の対応では解決が難しい課題に対して、分野をまたがり包括的に支援する体制が整備されるなど、相談体制について変化が見られた。また、新規事業として「後期高齢者の保健事業（一体的実施分）」が追加された。

評価としては、達成とした事業が 60 事業、概ね達成とした事業が 52 事業、未達成の事業が２事業となった。また、取組の方向としては、継続して推進していく事業が 113 事業（うち再掲 38 事業）、見直す事業が１事業となった。

基本方向	事業番号	施策目標	事業数	評価			取組の方向	
				達成	概ね達成	未達成	推進	見直し
１誰もが暮らしやすい地域づくり	1～55	１包括的な相談支援体制の充実	55	28	27	-	55	-
	56～61	２福祉施策の充実	6	6	-	-	6	-
	62～70	３権利擁護のさらなる推進	9	6	3	-	9	-
２誰もが活躍できる地域福祉のネットワークづくり	71～78	１地域で活躍する人が増える環境づくり	8	2	6	-	8	-
	79～85	２コミュニティの活動支援	7	4	3	-	7	-
	86～91	３災害時も助け合える取組みの強化	6	4	2	-	6	-
	92～96	４地域の活動拠点への支援	5	1	4	-	5	-
３誰もが支え合い尊重し合える意識づくり	97～105	１福祉意識の向上	9	4	4	1	9	-
	106～114	２福祉教育の推進	9	5	3	1	8	1
計			114	60	52	2	113	1

≪基本方向１　誰もが暮らしやすい地域づくり≫

地域における生活課題が複雑多様化する中、課題を解決していくには、福祉分野の各計画に沿って福祉施策を充実させていくことはもちろんのこと、困りごとがあるときには相談窓口が充実していて、適切に対応できることや、地域で暮らす人の権利が守られていることが基本であり、こうした取組が誰もが暮らしやすい地域をつくっていくことにつながるものです。

施策目標

１．包括的な相談支援体制の充実
２．福祉施策の充実
３．権利擁護のさらなる推進

施策目標１　包括的な相談支援体制の充実　【進行管理報告書　事業番号１～55】

具体的取り組み１　コミュニティソーシャルワーカーをはじめとする各種相談支援機能の充実
具体的取り組み２　複合的な生活課題への対応
具体的取り組み３　庁内外で連携・支援できる体制の拡充

令和４年度の主な取組及び課題等

包括的な相談支援体制の充実に向けて、介護、障害、子育て、生活困窮などの各分野の担当者による重層的支援会議・支援会議を定例的に実施し、複合的な課題を抱える相談に分野を超えて対応した結果、支援や関係機関との連携が円滑かつ迅速になった。また、新規事業として、「後期高齢者の保健事業（一体的実施分）」を開始し、健康状態不明者等の状況把握を行い、地域の関係機関と連携し、通いの場への積極的な関与や、個別支援を行った。評価としては、５５事業のうち、達成が２８事業、概ね達成が 27 事業となった。また、今後の取組の方向としては、推進が５５事業となった。

≪主な事業実績等≫

<table>
<tr><th>事業番号</th><th>事業名</th><th>担当部署</th><th>事業の概要（略）</th><th colspan="3">令和４年度の取組状況（略）</th><th>所管課評価</th><th>今後の課題・取組内容（略）</th><th>取組の方向</th></tr>
<tr><td rowspan="4">16</td><td rowspan="4">民生委員・児童委員</td><td rowspan="4">健康福祉政策課</td><td rowspan="4">日頃より住民の立場に立ち、地域住民への声掛けや相談への対応を行い、必要に応じて行政への情報提供や関係機関へつなぐ等の支援を行っている。</td><td colspan="3">地域住民への見守り活動や相談対応、困りごとに対する支援等を行っている。
高齢者に関すること：延７，６６２件
子どもに関すること：延１，１７７件
障害者に関すること：延３５１件
その他：延１，５４８件</td><td rowspan="4">達成</td><td rowspan="4">一斉改選では、民生委員・児童委員の充足率が８４．２％という結果となり、民生委員の担い手不足解消に向けて、委員活動の現状と課題など生の声を聞き、改善に努める。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">相談件数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>延 10,850 件</td><td>延 11,697 件</td><td>延 10,738 件</td></tr>
<tr><td rowspan="4">26
52</td><td rowspan="4">外国人のための一日相談会</td><td rowspan="4">観光交流課</td><td rowspan="4">外国人が日本での生活の中で抱える問題を多言語で相談できる場として、大阪府国際交流財団（ＯＦＩＸ）と連携し相談会を開催する。</td><td colspan="3">引き続き大阪府国際交流財団（ＯＦＩＸ）と連携し、ＷＥＢおよび対面での相談会を開催した。</td><td rowspan="4">概ね達成</td><td rowspan="4">広報ひらかたやホームページ・ＳＮＳで周知を行ったが相談件数が伸びなかったため、周知の方法を再考する。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">相談件数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>０件</td><td>５件</td><td>５件</td></tr>
<tr><td rowspan="4">53</td><td rowspan="4">(新)
後期高齢者の保健事業（一体的実施分）</td><td rowspan="4">健康づくり・介護予防課</td><td rowspan="4">保健師等の医療職を配置し、医療レセプト・健診・介護レセプト等の分析を行い、一体的実施の事業対象者の抽出、地域の健康課題の把握、事業の企画・調整・分析・評価等を行う。また、地域の関係機関と連携し、通いの場への積極的な関与や、個別支援を行う。</td><td colspan="3">令和４年度より、市内１３か所の地域包括支援センターにてアプローチを実施。健康状態不明者等９４３人の状況把握を行った。また、ポピュレーションアプローチとして１８か所にて延べ５６２人の教室参加があった。</td><td rowspan="4">概ね達成</td><td rowspan="4">より多くの健康状態不明者の状態把握ができるように努める。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">アプローチ件数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>延 1,536 件</td></tr>
</table>

施策目標２　福祉施策の充実　【進行管理報告書　事業番号 56～61】

具体的取り組み１　各福祉計画に基づく福祉施策の推進

令和４年度の主な取組及び課題等

前年度の実績、中間報告のほか進捗や今後の取組の方向について、庁内委員会及び社会福祉審議会にて、審議いただき進捗管理を行った。
評価としては、６事業のうち達成が６事業、また、今後の取組の方向としては、推進が６事業となった。

≪主な事業実績等≫

事業番号	事業名	担当部署	事業の概要（略）	令和４年度の取組状況（略）			所管課評価	今後の課題・取組内容（略）	取組の方向
59	「第２期枚方市子ども・子育て支援事業計画」での取り組み	子ども青少年政策課	おおむね１８歳未満のすべての子どもとその家庭、地域、事業者、行政などを対象とし、子ども・子育て支援施策を総合的に推進している。	庁内委員会である「子ども・子育て支援事業計画推進委員会」において、把握・点検、「枚方市社会福祉審議会子ども・子育て専門分科会」において評価・審議をいただくとともに、計画の中間年の見直しを行った。			達成	次期計画策定に向けたアンケート調査等を進めていく必要がある。	推進
				計画の進捗状況					
				R２（R元年度実績）	R3（R2年度実績）	R4（R3年度実績）			
				９２%	９５．６%	９３．８%			
61	「第４次枚方市ひとり親家庭等自立促進計画」での取り組み	子ども青少年政策課	ひとり親家庭及び寡婦の自立を支援する施策の推進に取り組んでいる。	庁内委員会である「ひとり親家庭等自立促進計画推進委員会」で把握・点検を行うとともに、「枚方市社会福祉審議会児童福祉専門分科会」において評価・審議をいただいた。			達成	第４次計画における「４つの取り組み指標」（※）を把握するため、アンケート調査を実施する予定である。	推進
				計画の進捗状況					
				R２（R元年度実績）	R3（R2年度実績）	R4（R3年度実績）			
				１００%	９８%	９３%			

※「４つの取組指標」… ①ひとり親家庭等相談窓口の認知度②養育費にかかる取り決めをしている方の割合③現在の生活状況について「苦しい」「大変苦しい」と答えた方の割合④「困ったことがあるとき相談する相手」について「相談先がない」と答えた方の割合

施策目標３　権利擁護のさらなる推進　【進行管理報告書　事業番号 62～70】

具体的取り組み１　成年後見制度や虐待防止をはじめとする権利擁護に関する制度の周知や利用支援
具体的取り組み２　市民後見人などの養成や支援

令和４年度の主な取組及び課題等

成年後見制度利用支援金の交付等を通じて、親類等からの援助が見込めない障害者や高齢者の権利擁護に努めた。
評価としては、９事業のうち達成が６事業、概ね達成が３事業となった。また、今後の取組の方向としては、推進が９事業となった。

≪主な事業実績等≫

<table>
<tr><th>事業番号</th><th>事業名</th><th>担当部署</th><th>事業の概要（略）</th><th colspan="3">令和４年度の取組状況（略）</th><th>所管課評価</th><th>今後の課題・取組内容（略）</th><th>取組の方向</th></tr>
<tr><td rowspan="3">63</td><td rowspan="3">在宅医療・介護連携推進事業</td><td rowspan="3">健康福祉総合相談課</td><td rowspan="3">「地域ケア推進実務者連絡協議会」等既存の連携体制を活用しながら、医療・介護関係者を対象とした研修をはじめ、在宅医療と介護の連携のための取組みを推進する。</td><td colspan="3">ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）についての市民向け講座を２回コースで開催（１回目は医師による講演、２回目は司法書士による講演）。医療・介護関係者の有志によるACP ワーキングを２回行った。</td><td rowspan="3">達成</td><td rowspan="3">ACP ワーキングを継続するほか、認知症啓発・ＡＣＰ普及啓発を目的に動画配信や普及啓発資料配布、講座開催を行うことにより、円滑な事業実施と連携を行う。</td><td rowspan="3">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">市民向け講座開催回数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td rowspan="3">70</td><td rowspan="3">市民後見推進事業</td><td rowspan="3">健康福祉政策課

社会福祉協議会</td><td rowspan="3">社会福祉法人や社団法人、NPO などが成年後見人等となる「法人後見」について、実施事業者の増加に向けて支援を行う。また、法人から実施希望がある場合は、ノウハウを伝えるなど支援する。</td><td colspan="3">市民後見人養成事業受託事業者の大阪府社会福祉協議会において、市民後見人養成講座を実施した。また、新たに１件の市民後見の受任が確定した。
受講修了者：８人、市民後見人バンクに登録</td><td rowspan="3">達成</td><td rowspan="3">待機しているバンク登録へのモチベーション維持のため、研修を実施するほか、市民後見人の資質向上につながるような情報誌作成に試行的に取り組む。</td><td rowspan="3">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">新規登録者数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>２回</td></tr>
<tr><td>３人</td><td>４人</td><td>８人</td></tr>
</table>

≪基本方向２　誰もが活躍できる地域福祉のネットワークづくり≫

地域福祉を推進していくには、地域に暮らすみんなが地域福祉の主体であることを意識し、多くの人が地域で活躍することが大切です。

誰でも活躍できる地域福祉のネットワークをつくっていくために、地域で活躍する人が増える環境づくりや、地域で活動されている団体の支援などに取り組んでいきます。

施策目標

１．地域で活躍する人が増える環境づくり
２．コミュニティの活動支援
３．災害時にも助け合える取組みの強化
４．地域の活動拠点への支援

施策目標１　地域で活躍する人が増える環境づくり　【進行管理報告書　事業番号 71～78】

具体的取り組み１　地域活動への参加のきっかけづくり
具体的取り組み２　枚方市社会福祉協議会との連携強化
具体的取り組み３　事業者等との連携強化

令和４年度の主な取組及び課題等

新型コロナ感染症の感染状況も落ち着いたことにより、参加型の活動が再開されはじめたことから、多くの事業において参加者が増加した。

また、全国的に令和４年 12 月に民生委員・児童委員の一斉改選を行ったところ、充足率が 84.2%という結果になり、民生委員・児童委員の担い手不足が浮き彫りとなった。また、新規事業として、後期高齢者の保健事業（一体的実施分）を開始し、健康状態不明者等の状況把握を行い、地域の関係機関と連携し、通いの場への積極的な関与や、個別支援を行った（再掲事業）。

評価としては、８事業のうち達成が２事業、概ね達成が６事業となった。また、今後の取組の方向としては、推進が８事業となった。

≪主な事業実績等≫

<table>
<tr><th>事業番号</th><th>事業名</th><th>担当部署</th><th>事業の概要（略）</th><th colspan="3">令和４年度の取組状況（略）</th><th>所管課評価</th><th>今後の課題・取組内容（略）</th><th>取組の方向</th></tr>
<tr><td rowspan="4">71</td><td rowspan="4">地域活動に関するセミナーなどの開催</td><td rowspan="4">健康福祉政策課</td><td rowspan="4">地域での活動について、事例の紹介などを通じ地域の活動に参加するきっかけがづくりとして、セミナーを開催する。</td><td colspan="3">従来は地域福祉専門分科会委員や民生委員・児童委員等参加者を限定して実施していた「地域福祉セミナー」を市民参加方式で「成年後見制度」をテーマにして実施。
アンケート結果では約８０％の方から「とてもよくわかりやすかった」「わかりやすかった」との意見があった。</td><td rowspan="4">達成</td><td rowspan="4">引き続き、市民参加方式でセミナーを開催し、地域福祉について広く周知を図っていく。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">セミナー参加者数
（R3 年度は Youtube 視聴回数）</td></tr>
<tr><td>Ｒ２</td><td>Ｒ３</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>―</td><td>824 回</td><td>８０人</td></tr>
<tr><td rowspan="4">72</td><td rowspan="4">民生委員活動の理解促進</td><td rowspan="4">健康福祉政策課

社会福祉協議会</td><td rowspan="4">民生委員の活動について、市民等に理解が得られるよう、民生委員についての理解促進を図る。</td><td colspan="3">昨年１２月に全国的に実施された一斉改選では、民生委員・児童委員の充足率が 84.2%となり、民生委員の担い手不足が課題として改めて浮き彫りになったことから、委員活動の現状と課題を把握するため、在任１期目から３期目までの民生委員・児童委員を対象とした「民生委員・児童委員　座談会」を開催した。</td><td rowspan="4">概ね達成</td><td rowspan="4">全民生委員・児童委員に対して、実際の委員活動の現状を把握するためのアンケート調査を実施する継続して座談会を実施する。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">欠員のある校区へチラシ送付した件数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>延６４件</td><td>延９３件</td><td>延８０件</td></tr>
</table>

施策目標２　コミュニティの活動支援　【進行管理報告書　事業番号 79～85】

具体的取り組み１　地域の情報発信の支援
具体的取り組み２　住民参加による活動の支援

令和４年度の主な取組及び課題等

新型コロナ感染症の感染状況も落ち着いたことにより、対面やオンライン方式等を取り入れた形でコミュニティ活動が再開してきており、参加者数も前年度を上回る傾向にあった。

評価としては、７事業のうち達成が４事業、概ね達成が３事業となった。また、今後の取組の方向としては、推進が７事業となった。

≪主な事業実績等≫

事業番号	事業名	担当部署	事業の概要（略）	令和４年度の取組状況（略）				所管課評価	今後の課題・取組内容（略）	取組の方向
83	元気づくり・地域づくりプロジェクト	健康づくり・介護予防課	住民参加による会議体の設置により、地域を基盤とした体力・元気づくり、参加・活躍・集いの場づくり、暮らしのサポート体制を構築していく。	オンライン介護予防教室を体験できる場（サテライト教室）を定期的に提供し、通いの場とオンライン教室を選択して参加できるようにした。同意を得た高齢者居場所に対して摂南大学による活動内容の調査に同行し、摂南大学がまとめた資料の周知等、通いの場の活動支援を実施。				概ね達成	全小学校区に第２層協議体が設置されるよう働きかけを継続し、実際の取組事例や助け合い活動に発展した取組み等の情報を共有し、それぞれの地域に応じた助け合いや支え合いなど地域づくりの支援を図る。	推進
				会議体設置校区数						
				R2	R3	R4				
				４２校区	４２校区	４２校区				

<table>
<tr>
<td>84</td>
<td>枚方子どもいきいき広場事業</td>
<td>放課後子ども課</td>
<td>全小学校区で、土曜日の学校休業日を基本に、地域の特色や多様性を活かしたプログラムを児童健全育成事業として実施する。地域団体やＮＰＯ等に対し支援・助成を行う。</td>
<td>４４校区のいきいき広場事業の活動団体において感染症対策を講じた上で、各校区の特色ある活動を実施した。
実施回数：延べ１，２０８回実施
活動団体代表者会議：３回開催
活動報告や取組内容などについて情報交換を行った。
　指標との整合性があっていないため、令和５年度に向けアンケート内容及び指標などの変更や手法を再検討するとともに、令和４年度のアンケートの実施を見送った。
<table>
<tr><td colspan="3">参加した子どもにおける満足度
（楽しかったと回答した割合）</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>―</td><td>約８８％</td><td>-</td></tr>
</table>
</td>
<td>概ね達成</td>
<td>令和５年度よりオープンスクエア事業（※）の実施にあたり、いきいき広場事業とオープンスクエア事業の参加する児童がどの事業に参加する児童かがすぐにわからないため、各団体と個別に相談する必要がある。</td>
<td>推進</td>
</tr>
<tr>
<td>85</td>
<td>子どもの居場所づくり（子ども食堂）推進事業</td>
<td>子ども青少年政策課</td>
<td>子ども食堂に取り組む市内の団体を支援し、子どもの居場所づくりの充実を推進している。新たに活動を始める団体を対象に、審査のうえ、備品購入費などの初期経費や、食材費などの運営経費について補助を行う。</td>
<td>地域や小学校等との関係づくりを支援や食材の寄付やボランティアの募集、取次ぎなど、団体の安定的な運営のため多方面からの支援を行った。
年に１回の開催でも補助金を交付する子どもの居場所づくり推進事業（トライアル）補助金を新設し、１団体（１か所）に補助金を交付した。

更新団体：１７団体
新規団体：１団体
開催回数：延２９３ 回
子どもの平均参加人数：３８人／回
<table>
<tr><td colspan="3">補助金交付団体数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>２０団体</td><td>１９団体</td><td>１８団体</td></tr>
</table>
</td>
<td>概ね達成</td>
<td>すべての子どもが子ども食堂を身近に利用できるよう、１校区１か所の設置を目指し、子どもの居場所としての子ども食堂の充実に取り組む。</td>
<td>推進</td>
</tr>
</table>

※放課後オープンスクエア事業…子どもたちが自分で考えて、自由に遊んだり、学んだりできる放課後の居場所として、放課後、土曜日、三季休業期に学校施設の一部を開放する事業

施策目標３　災害時にも助け合える取組みの強化　【進行管理報告書　事業番号 86～91】

具体的取り組み１　避難行動要支援者などの支援体制の構築
具体的取り組み２　地域の取組み事例の情報発信
具体的取り組み３　災害ボランティアの充実

令和４年度の主な取組及び課題等

令和３年５月に改正された災害対策基本法により「個別避難計画」の作成が努力義務化されたことにより、モデル事業を実施するなど関係各課により作成に向けて検討を進めている。

評価としては、６事業のうち達成が４事業、概ね達成が２事業となった。また、今後の取組の方向としては、推進が６事業となった。

≪主な事業実績等≫

<table>
<tr><th>事業番号</th><th>事業名</th><th>担当部署</th><th>事業の概要（略）</th><th colspan="3">令和４年度の取組状況（略）</th><th>所管課評価</th><th>今後の課題・取組内容（略）</th><th>取組の方向</th></tr>
<tr><td rowspan="4">86</td><td rowspan="4">「避難行動要支援者名簿」の取組みや「災害時要援護者避難支援事業」の充実及び支援体制の構築</td><td rowspan="4">危機管理対策推進課

健康福祉政策課

長寿・介護保険課

障害支援課</td><td rowspan="4">「避難行動要支援者名簿」を作成し地域の自主防災組織等へ配布する。
また、災害発生時に自力で指定避難場所まで避難することが困難な高齢者や障害者を対象に、避難行動を支援する「災害時要援護者避難支援事業」を進める。</td><td colspan="3">避難行動要支援者名簿システム』への情報登録を行った。
内閣府モデル事業を活用し、西船橋自治会において５件の個別避難計画を策定した。
「災害時要援護者名簿」について「避難行動要支援者名簿」との統合に向けて、課題整理を行った。
指定福祉避難所の協定締結施設関係者との意見交換会を実施し、課題となる事柄について協議を行った。</td><td rowspan="4">概ね達成</td><td rowspan="4">個別避難計画について、支援するべき要支援者の優先順位の高い者から、順次、作成する必要がある。西船橋自治会でのモデル事業による成果を踏まえ、本市での個別避難計画の策定を広げていく。
「災害時要援護者名簿」と「避難行動要支援者名簿」の統合により災害時に支援すべき対象者の情報を一本化し、円滑な避難支援につなげる。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">避難行動要支援者名簿登載者</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>１２，２２３人</td><td>１５，９９５人</td><td>１５，２１９人</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">87</td><td rowspan="4">枚方市防災マップ</td><td rowspan="4">危機管理対策推進課</td><td rowspan="4">洪水（川の氾濫によるもの）浸水想定や地震情報に加え、内水（雨水管からあふれたものなどによる）浸水想定や土砂災害警戒区域、活断層の概略図などを掲載し、内水ハザードマップと洪水ハザードマップを併記している。</td><td colspan="3">中宮北小学校及び高陵小学校の統合に係る禁野小学校への変更や、自動音声配信電話サービスやＶＡＣＡＮ（※）の紹介など、より良い防災ガイドを作成した。</td><td rowspan="4">達成</td><td rowspan="4">浸水想定の変更など「日本語版防災ガイド」の大規模改訂にあわせて点字版・音訳版の更新が必要。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">作成部数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>200,000 部</td><td>10,015 部</td><td>10,000 部</td></tr>
</table>

※ＶＡＣＡＮ…株式会社バカンが運営する避難所の開設・混雑情報配信サービス。避難所の位置や混雑状況をスマートフォンやパソコンなどでリアルタイムに確認することができる。

施策目標４　地域の活動拠点への支援　【進行管理報告書　事業番号 92～96】

具体的取り組み１　地域の活動拠点の整備等への助成

具体的取り組み２　市内施設の活用や事業者との連携による地域福祉活動の支援

令和４年度の主な取組及び課題等

新型コロナ感染症の感染状況も落ち着いたことにより、地域での活動が再開している状況であることから、活動意欲の向上に向けて活動支援を行った。

評価としては、５事業のうち達成が１事業、概ね達成が４事業となった。また、今後の取組の方向としては、推進が５事業となった。

≪主な事業実績等≫

<table>
<tr><th>事業番号</th><th>事業名</th><th>担当部署</th><th>事業の概要（略）</th><th colspan="3">令和４年度の取組状況（略）</th><th>所管課評価</th><th>今後の課題・取組内容（略）</th><th>取組の方向</th></tr>
<tr><td rowspan="4">93</td><td rowspan="4">高齢者居場所づくり事業</td><td rowspan="4">健康づくり・介護予防課</td><td rowspan="4">高齢者が住み慣れた地域の中で、健康でいきいきとした暮らしができるよう、自由に集まり、交流できる場所を創るため、実施場所の登録と情報提供をする。</td><td colspan="3">令和３年度に続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、活動の自粛が続いているが、感染対策を講じた開催方法について、相談に応じた。</td><td rowspan="4">概ね達成</td><td rowspan="4">活動の自粛が続くことによる運営側の意欲低下に対し、状況に応じた活動支援が必要。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">登録数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>１１６か所</td><td>１１１か所</td><td>１１０か所</td></tr>
<tr><td rowspan="4">96</td><td rowspan="4">事業者による地域交流スペースの提供</td><td rowspan="4">健康福祉政策課

社会福祉協議会</td><td rowspan="4">市内の社会福祉法人が連携し福祉課題解決に向け取り組む「枚方市社会福祉施設地域貢献連絡会」とコミュニティソーシャルワーカーが連携し事業展開を図る。コミュニティワーカー等が企業や商店会・事業所と地域の橋渡し的役割を担う。</td><td colspan="3">社会福祉施設地域貢献連絡会専門職とコミュニティーソーシャルワーカーが連携し、市内商業店舗で相談会を開催。福祉に関する相談会、各施設、地域貢献連絡会活動の広報、啓発を実施した。
福祉なんでも相談会：２回（計４日）実施（「イズミヤ枚方店」「アル・プラザ枚方店」にて）</td><td rowspan="4">概ね達成</td><td rowspan="4">商業施設の一角で実施しているため、相談者のプライバシーの確保が課題。センシティブな相談等は各施設等や相談機関で別日に相談対応するようコーディネートを行っている。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">相談会参加者数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>―</td><td>４８件</td><td>７８件</td></tr>
</table>

≪基本方向３　誰もが支え合い尊重し合える意識づくり≫

地域では様々な人が生活しています。その誰もが、住みなれた地域で暮らし続けていくには、お互いの違いや個性を理解し尊重しあえるよう、学びを深めていくことが大切です。

誰もが支え合い尊重し合える意識を根付かせていくため、多様な方々の理解を深める事業や、世代を越え福祉に関する教育に取り組んでいきます。

施策目標

１．福祉意識の向上

２．福祉教育の推進

施策目標１　福祉意識の向上　【進行管理報告書　事業番号 97～105】

具体的取り組み１　福祉や人権に関する理解促進のための啓発・情報発信

具体的取り組み２　事業者等による地域貢献活動の広がり

令和４年度の主な取組及び課題等

福祉に関するイベントや講演会の開催が再開されてきており、福祉意識の向上に向けた啓発活動情報発信につながった。

評価としては、９事業のうち達成が４事業、概ね達成が４事業、未達成が１事業となった。また、今後の取組の方向としては、推進が９事業となった。

≪主な事業実績等≫

<table>
<tr><th>事業番号</th><th>事業名</th><th>担当部署</th><th>事業の概要（略）</th><th colspan="3">令和４年度の取組状況（略）</th><th>所管課評価</th><th>今後の課題・取組内容（略）</th><th>取組の方向</th></tr>
<tr><td rowspan="3">100</td><td rowspan="3">ほっこりひらかた</td><td rowspan="3">障害企画課</td><td rowspan="3">障害に対する正しい理解を深め、地域において、障害がある人もあらゆる社会生活に参加し、いきいきと活動できる社会の実現を目指す啓発イベント「ほっこりひらかた」を開催する。</td><td colspan="3">講演依頼先と調整がつかず、実施できなかった。
事業委託先の自立支援協議会において、障害者週間に、知的障害への理解を求める啓発ポスターの掲示の取り組みが行われた。</td><td rowspan="3">未達成</td><td rowspan="3">自立支援協議会幹事会との連携を密にし、計画的にイベントを企画し、障害への正しい理解に繋がるよう周知啓発を図る。</td><td rowspan="3">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">参加者数</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td rowspan="4">101</td><td rowspan="4">社協ふくしフェスティバル</td><td rowspan="4">社会福祉協議会</td><td rowspan="4">社会福祉協議会と共に地域で活動するボランティア・福祉団体・施設・関係団体の活動や発表を行い、地域福祉活動やボランティア活動を広く市民に広報するための催しを開催する。</td><td colspan="3">３年ぶりに集客して開催。
ボッチャ大会、えほんライブ、パネル展示等のほかYouTube 配信を行い約９００回の動画視聴があった。</td><td rowspan="4">達成</td><td rowspan="4">参加団体の増加により、ラポールひらかたのみではブース不足となりつつあるため、今後は隣の総合文化芸術センターとの連携協力をさらに進めていくことが必要となっている。</td><td rowspan="4">推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">参加者数
（R3 年度は Youtube 視聴回数）</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr>
<tr><td>－</td><td>約 900 回</td><td>約 1,000 人</td></tr>
</table>

施策目標２　福祉教育の推進　【進行管理報告書　事業番号 106～114】

具体的取り組み１　福祉施設や交流の場などでの学習の推進

令和４年度の主な取組及び課題等

令和４年度においては、交流や体験を目的とした事業が再開されたことから、実地で福祉について学ぶ機会を持つことができ、福祉教育の推進につなぐことができた。

評価としては、９事業のうち達成が５事業、概ね達成が３事業、未達成が１事業となった。また、今後の取組の方向としては、推進が８事業、見直しが１事業となった。

≪主な事業実績等≫

<table>
<tr><th>事業番号</th><th>事業名</th><th>担当部署</th><th>事業の概要（略）</th><th>令和４年度の取組状況（略）</th><th>所管課評価</th><th>今後の課題・取組内容（略）</th><th>取組の方向</th></tr>
<tr><td>109</td><td>子どものSOS出し方教育</td><td>保健医療課

児童生徒支援課</td><td>【保健医療課】
児童・生徒が社会において直面する可能性のある様々な困難・ストレスへの対処方法を身につけるための教育の実施。

【児童生徒支援課】
若年者の自殺対策のため、「ＳＯＳの出し方教育」を企画・実施する人材を養成する講習会の周知をしている。</td><td>【保健医療課】
新型コロナウイルス感染症感染拡大により、保健所や教育現場の状況から教育委員会との協議の実施は困難であった。

【児童生徒支援課】
子どもの人権ＳＯＳミニレターを小中学校に周知し、活用を呼び掛けた。
教育委員会との協議回数【保健医療課】
R2：－　R3：－　R4：－
周知した学校数【児童生徒支援課】
R2：６４校　R3：６４校　R4：６３校</td><td>概ね達成</td><td>【保健医療課】
保健所や教育現場の状況から、実施について協議をしていく。

【児童生徒支援課】
「ＳＯＳの出し方教育」を企画・実施する人材の養成が必要である。</td><td>推進</td></tr>
<tr><td>111</td><td>福祉施設での介護体験</td><td>教育指導課</td><td>「地域等の協力により社会体験を積極的に取り入れ、その実践的態度を育成すること」を目的として、福祉施設等での介護体験実習活動を行う。</td><td>例年、福祉施設等において介護体験活動を実施してきたが、コロナ禍を踏まえた感染防止の観点から福祉施設とのオンライン・インタビュー等、手法を工夫した取り組みを実施している。
参加者数
R2：－　R3：－　R4：２０校</td><td>概ね達成</td><td>各小・中学校において、総合的な学習の時間等において福祉教育に取り組んでいるが、コロナ禍を経て、学校も教育活動を変更している部分もある。今後より効果的な活動のあり方について、検討していく必要がある。</td><td>見直し</td></tr>
<tr><td>112</td><td>「ほっこりひらかた」など交流イベントの実施</td><td>障害企画課</td><td>障害に対する正しい理解を深め、地域において、障害がある人もあらゆる社会生活に参加し、いきいきと活動できる社会の実現を目指す啓発イベント「ほっこりひらかた」を開催する。</td><td>講演依頼先と調整がつかず、実施できなかった。
事業委託先の自立支援協議会において、障害者週間に、知的障害への理解を求める啓発ポスターの掲示の取り組みが行われた。
参加者数
R2：－　R3：８５人　R4：－</td><td>未達成</td><td>自立支援協議会幹事会との連携を密にし、計画的にイベントを企画し、障害への正しい理解に繋がるよう周知啓発を図る。</td><td>推進</td></tr>
</table>